

第2章 栃木県の目指す国際化

1 目標（目指す姿）

— 世界から選ばれるとちぎ

「とちぎ」が世界から認められること、選ばれることは、豊かな未来につながると考えます。

また、本県関係者が目標（ビジョン）を共有しながら連携し、本県の様々な強みを十分に生かし、新たな価値を生み出すことができれば、「世界から選ばれるとちぎ」の実現が可能になると考えます。

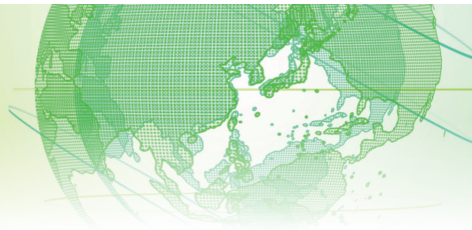
そこで、「世界から選ばれるとちぎ」とは、どのような姿であるかを次に示します。

- ◎ 県産品・県産農産物や技術等、また、外国人が訪れる地、暮らす地、働く地としての魅力が世界から認められ、それが県内産業の発展や地域活性化につながっている、好循環を生み出している“とちぎ”
- ◎ 外国人材の適切な受入環境及び外国人が安全・安心に暮らし、働ける環境が整い、日本人と外国人とが互いの文化的な違いを認め、対等な関係を築きながら共生している“とちぎ”
- ◎ 県民、事業者・関係団体、行政等、各主体が本県の国際化のために連携し、未来を担う「人」が育つ“とちぎ”

2 基本姿勢

— 目標（目指す姿）を実現するために、3つの姿勢で戦略を展開します。

- ◎ **強みを生かす**
世界に誇るとちぎの強み（技術や食、自然、歴史、文化等）を生かします。
- ◎ **連携する**
様々な分野の県内関係者が連携してオールとちぎで取り組むとともに、他自治体、相手国・地域等とも連携します。
- ◎ **挑戦する**
意欲ある県民や企業・事業者等とともに、国際競争に攻めの姿勢で挑戦します。



3 基本戦略

一 戦略の対象や分野を明確化した基本戦略の4本柱

平成28（2016）年3月に策定したプランの基本施策「世界で活躍する人づくりの推進」「世界の人が集う地域づくりの推進」「世界から活力を取り込む産業の振興」「世界とつながる“とちぎ”づくりの推進」を継承しつつ、戦略の対象や分野を明確化した基本戦略を「戦略の4本柱」として定め、それらを総合的に展開することにより、相乗効果の最大化を図ります。

◎ グローバル展開の促進

県内企業の海外展開を支援するとともに、県産品・県産農産物の生産体制やブランド力を強化することなどにより、輸出を促進します。

また、県内企業等がグローバル人材^{※1}を確保する取組を促進します。

◎ 外国人観光客の誘客推進

様々な媒体を駆使して県内の観光資源の魅力を効果的にPRするとともに、外国人旅行者が快適に観光を満喫できるよう受入態勢を強化することにより、外国人観光客の誘客を推進します。

◎ 国際交流・協力の促進

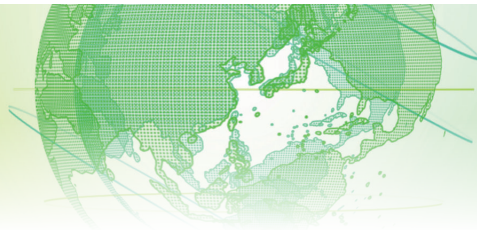
地域経済の活性化や人材育成に寄与する国際交流や国際協力に取り組むとともに、県民の豊かな国際感覚の醸成により、国と国、人と人との信頼関係を築く国際交流・協力を促進します。

◎ 多文化共生^{※2}の推進

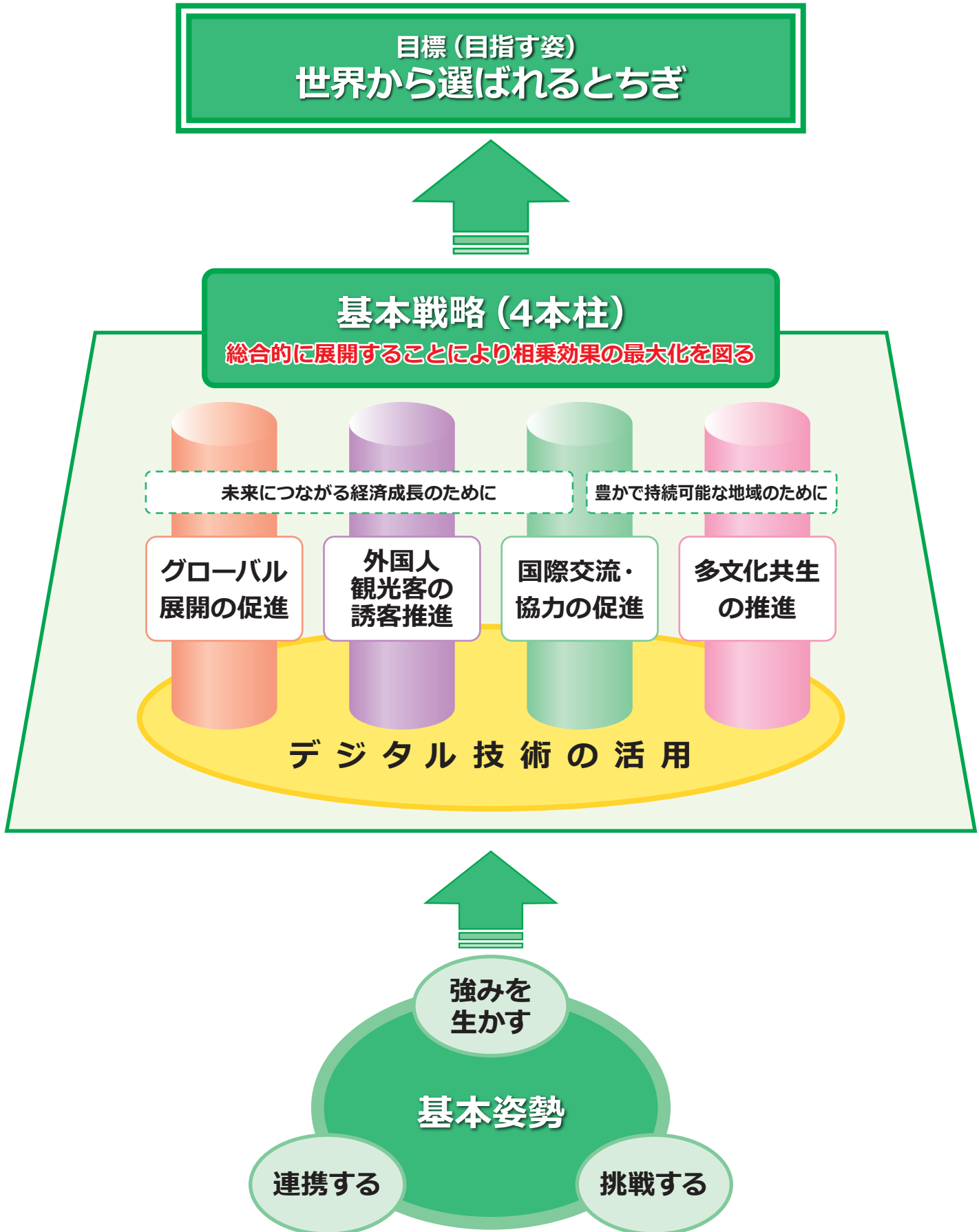
外国人の生活・就労環境の整備を促進するとともに、外国人の地域社会への参画を促進することにより、外国人の誰もが働きやすく、暮らしやすい、また、日本人にとっても魅力のある地域となるよう多文化共生を推進します。

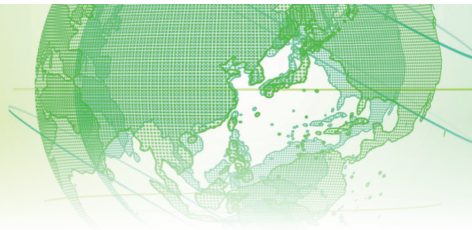
※1 本戦略では、語学力、コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解等の精神を身につけ、国際業務をはじめ様々な分野で活躍できる人材、具体的には、大学等に在籍する外国人留学生、海外留学の経験がある日本人、青年海外協力隊経験者等をいう。

※2 国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。（出典：総務省「多文化共生の推進に関する研究会報告書」（平成18年3月））



図表1 体系図





4 重点エリア

一 本県の強みを生かした施策を総合的に展開可能なエリア

県産品・県産農産物や観光地等、本県の強みを最大限生かすことができる国・地域が集中し、本戦略の推進期間中にグローバル展開及び外国人観光客の誘客における施策を総合的に展開するエリアを重点エリアとしています。

- ◎ 東アジア、東南アジア、米国を重点エリアとします。
- ◎ 県内の外国人労働者数を含む外国人住民数は増加傾向であることから、多文化共生の推進には国・地域問わず取り組んでいきます。

東アジアは、日本と地理的に近く、経済や人的・文化的交流において古くから密接な関係にあります。

東南アジアは、今後も人口増加や、更なる経済活動の活発化に伴う高い経済成長が期待されています。

米国は、巨大な市場かつ世界への影響力が強い国であり、米国において高い評価を受けることは、ブランド力の強化につながると考えます。

また、以下のとおり、**3つのステージに分類**し、取り組んでいきます。

なお、第3章では、それぞれのステージを重点エリアの国・地域を中心に示しています。

▶ 「稼ぐ」ステージ

ゆるやかな検疫、確立した商流等により今すぐにも稼ぐことができるステージ

▶ 「拓く」ステージ

検疫の緩和等により今後有望であり、5年先の成果を見据えるステージ

▶ 「探る」ステージ

可能性はあるが、厳しい検疫、脆弱なインフラ等により10年先を見据えるステージ

図表1 日本の経済成長推移と重点エリアの主な国・地域のプロット

